



資料：総務省「国勢調査」
 (注)「配偶関係不詳」は省略した。

(4) 女性の有配偶率は5割弱だが上昇傾向

65歳以上の高齢者の配偶関係についてみると、平成17(2005)年における有配偶率は、男性81.8%に対し、女性は47.1%である。女性高齢者の約2人に1人が配偶者ありとなっており、その割合は上昇傾向にある。また、未婚率は、男性2.4%、女性3.5%、離別率は男性2.8%、女性3.9%と共に上昇傾向となっている(図1-2-1-11)。

2 高齢者の経済状況

(1) 暮らし向きについて、苦しいと感じている高齢者は高齢になるほど減少

高齢者の暮らし向きについてみると、「苦しい」(「大変苦しい」と「やや苦しい」の計)と感じている人の割合は全体で26.4%であり、高齢にな

るほど「苦しい」と感じる人は減少する。

また、家計の状況をみると「赤字になる(「ほぼ毎月赤字になる」と「ときどき赤字になる」の計)」と回答した人の割合も約4割(40.4%)であった(図1-2-2-1)。

(2) 高齢者世帯は、世帯人員一人当たりの年間所得が全世帯平均と大きな差はなく、6割強の世帯は所得が公的年金・恩給のみ

高齢者世帯(65歳以上の人のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の人が加わった世帯)の年間所得(平成20(2008)年の平均所得)は297.0万円となっており、全世帯平均(547.5万円)の半分強であるが、世帯人員一人当たりで見ると、高齢者世帯の平均世帯人員が少ないことから、192.9万円となり、全世帯平均(208.4万円)との間に大きな差はみられなくなる。